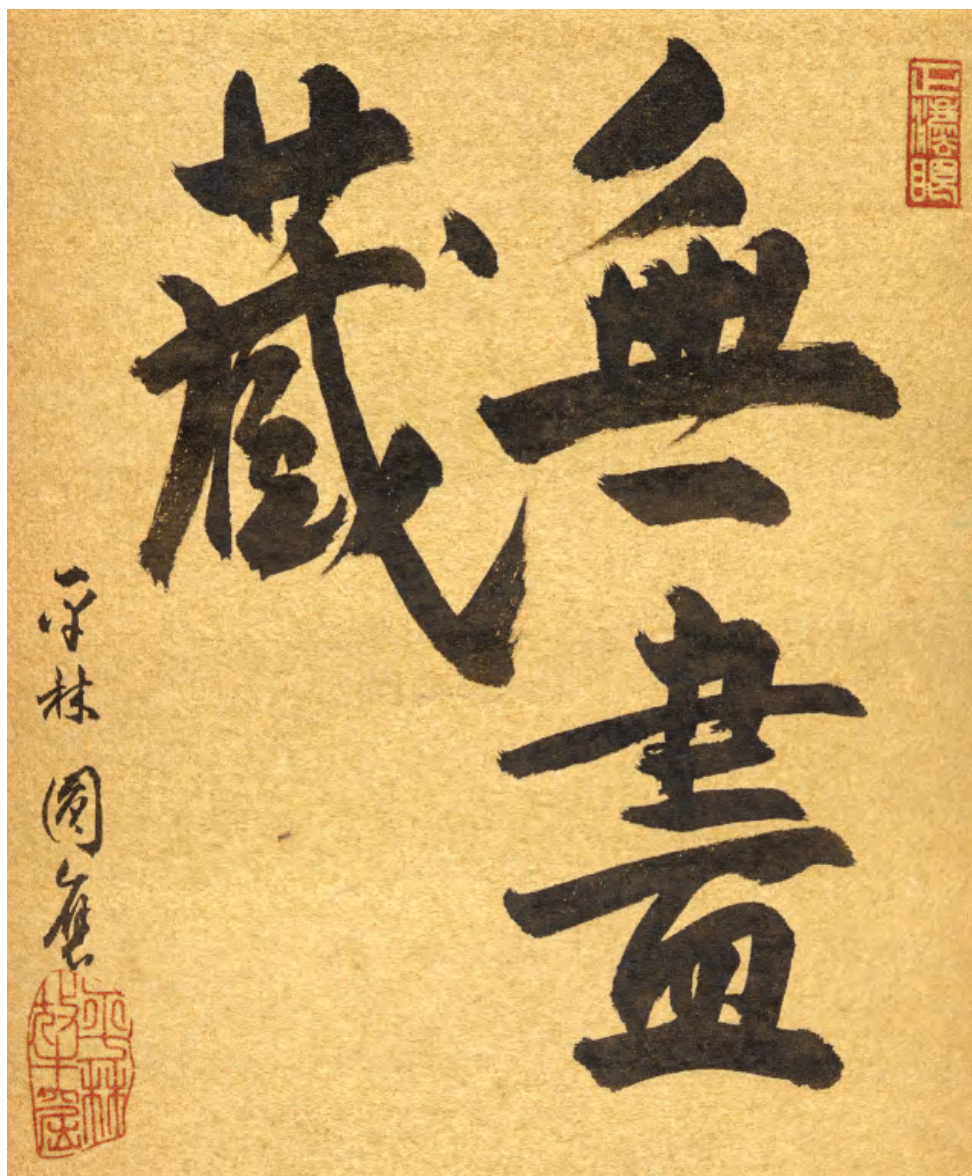


# 圓福寺報

圓福寺報 第五十四号  
 平成二十一年七月十五日発行  
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺  
 千葉市稲毛区六川町三七五 TEL (二五二) 九二八一  
<http://www.chiba-empukuji.com>  
 E-mail: oshou@chiba-empukuji.com



「無盡蔵」(むじんぞう) 仏の教えは、一切万象を包蔵して、尽きることが無い。

埼玉県新座市 平林寺専門道場前師家 糸原圓應老大師御染筆

## 目次

法話「本物の人になる」	2	頁
市原別院、武士風土記		
「国分寺台から武士の里へ」	6	
熊倉 浩さん		
六月の土曜会		
「日光白根山と富弘美術館の旅」	12	
第四回四国あるき遍路のご案内	14	
施餓鬼会厳修	14	
穴川花園幼稚園 園だよりから		
「はじめての遠足」	15	
妙心寺夏季講座のご案内	16	
第29回花園会ゴルフ大会報告	17	
平成二十年度花園会会計報告	17	
お寺と和尚の日録抄	18	
竹中靖さん、逝く。	19	
地蔵盆のご案内	20	

# 本物の人になる

今年幼稚園の庭で畑を作っています。ジャガイモは園児たちが食べました。ナスとかキュウリは、いまだ子どもたちの餌食になっていないので、大人が食べるができます。

取れたたてで無農薬とくれば、うまいに決まっています。ああ、これが本物の味だ、農薬漬の輸入野菜とは違う、といいたくなるのはひいき目だけではないと思います。

## ■いせもの横行

ひところ食品をはじめ偽装が世間を賑わせました。牛肉・うなぎ・貝・米、そして不正採用した教員も偽装といえるかもしれません。また、最近では葬儀に現われる二七坊主も横行しているようです。



そこで本物を証明する書類やバーコード、製品番号などをつけたりしました。私たちも会社に就職するときには、履歴書を書きます。自分の証明書です。そして、自分は本物ですというわけです。

## ■本物の条件

では、人間にとって本物ってなんでしょう。不正採用された先生も、子どもたちにとっては信頼していた先生だったはず。そう考えると、信じられない信用できるといのが人間としての本物の条件の一つと言えるのではないのでしょうか。

いくら偉そうなことを言っても、嘘をつけば信用されませんし、悪いことをすればすべてに疑いの目を向けられます。そこで、仏教には七仏通戒偈しちぶつつうかいげと

いう一番基本的な決まりがあります。

「諸悪莫作しよあくまくさ 衆善奉行しゆぜんぶぎやう」  
じじようごい ぜしよふつきやう

自浄其意 是諸仏教」

「いい、もろもろの悪をなさず、よい行いをし、自らの心を清めよ。これが諸仏の教えである。」  
 という意味です。これが仏教で本物の人、信じられる人になるための指針となります。

## ■人のことを言う前に

ところが私たちは自分のことを棚に上げ、ひいき目で見、自分がこれだけやっているのに、だれもわかってくれないとか、こうすればいいと思うのに、いうことを聞かない奴ばかりだとか言ってしまう。

ゴルフ番組の中で解説の人がいいことを言っていました。ゴルフは少ない打数で回ってきたほうが勝つ競技で、相手より少



なくと思ってゴルフをやります。ところが、他のスポーツと違って相手の打

数を自分でどうすることもできない競技なんだと。そこで、相手に勝とうと思ったら、自分でもっともっと練習するしかありませんというのです。確かに、直接相手と対戦する柔道とかバレーボールとかサッカーとかの競技は、いかに相手の動きを封じたり、点を入れられないようにするとか、相手を何とかすることができるとはわけです。

私たちの日常もゴルフと同じところがあります。相手をどうこうして変えるというよりも、自分自身を変えるしかないのです。自分自身を信じてもらえない自分、本物の人間へと変えていくようにしなければいけません。といっても、自分さえ良ければいいのではありません。親鸞聖人が「教行信証」の中

で言われたように、

「自信教人信 難中転更難」  
(自ら信じ人をして信ぜしむること、難きが中に転更難し)

で、自分の信ずることを人にも信じさせることは、難しいものごとの中でもとりわけ難しいといふのです。ですから、まず自分を変えて、その変わった自分を通して相手が変わっていくことが何よりだと言えるのです。

その自分を変えていくよりどころとなる言葉が、先ほど申し上げた七仏通戒偈の、

「諸悪莫作 修善奉行 自淨其意 是諸仏教」といふことです。

### ■行うは難し

ある人が、偉いお坊さんに、仏教の一番大切なところは、何でしょうかと尋ねたそうです。偉いお坊さんだから、なにか難しそうなのがあるが、たいことをおっしゃってくださいさるだろうと期待をしておりました。すると、その偉いお坊さんがこの七仏通戒

偈をおっしゃったそうです。なにかありがたい言葉をいただけるかと思つていた人は、悪いことをするな、よい行いをしろなんて、ちっちゃい子どもでも知っていることじゃありませんか、それが仏様の教えだなんて・・・とがっかりしている、その偉いお坊さんが言ったそうです。



「小さな子どもでもわかることだが、それを行うことができない大人は少ないぞ。」

### ■シュリハンドクの修行

お釈迦さまのお弟子様はたくさんいらつしゃいます。兄弟で出家したお弟子さんもいらつしゃいました。事情があつて祖父母に育てられた兄弟でした。祖父母に連れられてお釈迦さまの教えを聞きに行つていられるうちに、頭のいい兄は出家することになりました。



その報いを受けて、今はいくら教えを覚えようと思ってもすぐに忘れてしまうのでした。

た。一生懸命修行をして、ほどなくお悟りを開くことができたそうです。そのお悟りの素晴らしい境地、すがすがしい気持ち、弟にも味わってもらいたいと思いい、弟のシュリハンドクを出家させました。

ところが、賢い兄と違って弟のシュリハンドクは頭がよくありませんでした。兄が教えた四行ばかりの歌も、四ヶ月かかっても暗記することができません。

シュリハンドクが生まれつき愚かだったのは、前世に於いて出家したことがあったのですが、そのときは非常に賢かったので、他のお弟子さんがお経を覚えられずにいることを嘲り笑ったことによったそうです。

弟にもお悟りを開いてもらいたいと願って、熱心に教えていた兄も、ついには諦めてしまいい、

「お前にはとてもお悟りを開くことはできないだろう。諦めてこの寺から出て行くがよい。」とお寺から追い出してしまいました。

途方にくれて嘆いていると、シュリハンドクの前にお釈迦さまが立っていました。事情を聞いたお釈迦さまは、シュリハンドクを連れ帰りました。そして、一枚の布を与えて言いました。

「お前はこの布切れを持って、私の元に来る人の衣のほりや履物の泥を払いながら『ちりを払え、あかを取れ。』と唱えなさい。」

すっかり自信をなくしていたシュリハンドクはその短い言葉さえ覚えきれないと思いま



した。

「心配は要らない。そのときは他の弟子たちが教えてくれるだろう。」といい、お釈迦さまは大勢の弟子を集めて、

「これからは、シュリハンドクが衣のほりや履物の泥を払ってくれたら、お礼の言葉の代わりに『ちりを払え、あかを取れ。』と唱えてあげなさい。」と話しておきました。

それから毎日、シュリハンドクはたくさんのお弟子さんの衣のほりを払い、履物をぬぐいました。そして、「ちりを払え、あかを取れ。」とお弟子さんに続いて唱えることを続けました。

こうして何年かたったある日、シュリハンドクは思いました。

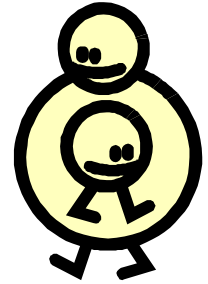
私はいつも「ちりを払え、あかを取れ」と唱えているが、払





こりや汚れではなく、心そのものの汚れを取り除かなければならないのだ。」と悟ったのだそうです。

わなければならぬ。ちりとはいったい何だろう。衣についているちりだけだろうか。また取らなければならぬ。あかとはなんだろうか。そのときシュリハンドクは気づきました。そうか、人間の心の中のちりやあかを取り除くことが大切なんだ。そしてまた、自分が持っている布切れを見て思いました。「わたしが持っている布は、はじめはきれいなものだった。それがいつの間にかこんなに汚れてしまった。人の心もこの布切れと同じで、最初はきれいだったのにいつのまにか汚れてしまう。私は、心の中にあるほこりや汚れではなく、心そのものの汚れを取り除かなければならないのだ。」と悟ったのだそうです。



### ■本物の人になるためのことば

愚か者のシュリハンドクを救った言葉は、「ちりを払え、あかを取れ。」でした。私たちにとっては、七仏通戒偈の「諸悪莫作 衆善奉行」、もろもろの悪をなさず、よい行いをしなさい、という言葉が、もともとの汚れていないところを取り戻させてくれる、「自浄其意」です。とともに、私たちが偽装人間ではない、本物の人間に導いてくれることばだと思えます。「自分で自分を大切にする」という詩があります。

さあ、一分以内に言葉に出して自分のいいところを言ってごらんなさい  
たくさんあるでしょう

さあ 真っ白な紙を用意して自分のいいところを書き出してごらんなさい  
いくつもあるでしょう

こんないいところがたくさんあるんだから落ち込むことはない  
こんな自分と仲良くなるようよ  
こんな自分を幸せにしようよ

自分で自分を大切にす  
べてはここから始まるんだ

みなさんの「自分のいいところ」には、「諸悪莫作 衆善奉行」と書いていただきたいのです。人にだまされてニセモノの食品を買わせられようが、シュリハンドクのように馬鹿にされようが、「諸悪莫作 衆善奉行」を実行できれば、人から信じられる人となるはずで、ニセモノか本物かの判断基準は最初に申し上げたとおり、信頼されるか信じられるかですから、「諸悪莫作 衆善奉行」をできる人こそが「本物の人」といえるのです。  
「是諸仏教」

既にご案内の通り、圓福寺市原別院計画のもと、種々活動を進めてきております。その一環として、別院予定地周辺の地誌をご紹介します。郷土千葉を知るきっかけにもなります。執筆・写真は、以前「穴川風土記」をまとめてくださった熊倉浩さんです。現地踏査、歴史資料を基にした綿密な内容になっており、ご労苦に感謝申し上げます。



## 国分寺台から武士の里へ

～上総国市原郡の中心地をゆく～

### ◇村田川を渡る

千葉街道を南下し蘇我で国道と分かれ県道24（旧国道）に入る。浜野で村田川を渡るとそこは上総国である。土気高地どけこうちを源流とする村田川は上総・下総国境であることから境川ともいわれた。さらに南へ行くと古代人の営みの跡が広大な地域に夥しく分布しているとても魅力に満ちたところに入る。

はるかな縄文・弥生・古墳の時代を経て数千年の静かな眠りから、昭和の「開発」という名の人間の行為によって無理矢理に揺り起こされた古代人の生きた証の数々・・・かつては白砂青松だった五井の海岸（袖ヶ浦）が埋め立てられるや京葉コンピナートが構築され、操業が開始されると町は爆発的に発展した。市制が敷かれるとやがて

東京湾が遙かに望めた台地にも近代化の波が押し寄せビルが建ち並びそして一大都市が出現した。台地を「国分寺台」という。市原市役所があり、行政の中心が古代も現代も変わらないというのがおもしろい。

### ◇八幡宿から五井へ

浜野を過ぎると市原市八幡宿の町となる。まず飯香岡八幡宮にお参りしよう。大化の改新後の白雉四年（653）の創建という。はじめ国府惣社八幡宮と称された惣社である。ここを中心とした一帯が上総国の市原庄である。

社殿は見事で是非裏まで回って



上総国の惣社・飯香岡八幡宮

見たい。本殿は国指定重要文化財、拝殿は県指定有形文化財である。両者は繋がって一体となっているのが珍しい。趣のある参道正面の鳥居は両部鳥居である。かつては神仏習合であったことを示している。八幡様の多くはそうであった。鳥居の前はすぐ海で砂浜であったが今はどこまでもコンピナートが続き昔日の面影はない。時間があれば宝物館も見学したい。柳楯神事の詳しい解説がある。神社には夫婦銀杏、逆さ銀杏、地元出身の立野信之の文学碑など興味は尽きないが先へ行こう。

五井の町に入る。小湊誕生寺へ参詣客の足として敷かれた小湊鉄道はここから上総中野まで走る。清澄の山を越える難工事と戦争という時代のために小湊まで開通することはなく終わった。鉄道ファンに人気の蒸気機関車が小湊鉄道の機関庫に歴史資料（県指定文化財）として保



小湊鉄道蒸気機関車・県指定文化財

存されている。3両中2両は米国製で、部品のままで輸入され五井で組み立てられたという。線路の反対側（海側）に道標があった。江戸道（海岸線・房総往還）が通っていたと分かる。ここが久留里西往還分岐点であることを示していた。現在は定かではないがここから武士や商人が久留里の城や街へ向かったのだろう。現在道標は能満の市原市埋蔵文化財調査センター（以下埋文調査センター）の構内に移設されている。青面金剛像の下に「江戸道」、右に「たかくら道」「木さら

線路の反対側（海側）に道標があった。江戸道（海岸線・房総往還）が通っていたと分かる。ここが久留里西往還分岐点であることを示していた。現在は定かではないがここから武士や商人が久留里の城や街へ向かったのだろう。現在道標は能満の市原市埋蔵文化財調査センター（以下埋文調査センター）の構内に移設されている。青面金剛像の下に「江戸道」、右に「たかくら道」「木さら



江戸道・久留里西往還分岐点の道標

津ミチ」「房州道」、左に「くる里みち」と案内が刻まれている。高倉道・木更津道・房州道・久留里道である。文化四年（一八〇七）とある。

八幡宿の町まで戻り東へ入り菊間への道をとる。館山高速度の手前右手、八幡東中学の近くに「御墓堂」という墓域の一角に忘れられたかのように小弓

公方足利義明夫妻の墓がある。義明は足利初代將軍尊氏の子基氏から数えて七代目にあたる。義明の孫の頼氏は下野・喜連川藩の藩主となった。喜連川藩は五千石の小藩ながら十万石の格式で幕末まで「高家」として遇された。以前荒れていた墓はよく整備されていて見学者も多いらしい。



小弓公方足利義明夫妻墓

◇巨人伝説

台地とJR内房線の間の低地は広い水田となり近時家が目立つようになったが律令時代の条里せいらいのようになったが律令時代の条里じょうり制跡であることが昭和三十一年(1956)に発見された。遺構がよく残っていて海岸へと伸びる当時の官道(古代国道)も出てきた。市原条里制遺跡という。館山道の下をくぐり田圃が尽きるところ若宮八幡坂下を右折する。若宮団地の住宅地に入ると奇妙な高呂塚公園という小公園がある。巨人・デーデッポ伝説である。土地により呼び方は様々でダイダラポッチ、デーダラポッチ、ダイダッポ、デーダクボウ、ライラッポ等々。この伝説は特に関東地方に広く分布する。古くは『常陸国風土記』という書物に「平津のうまや駅家の西に岡あり、名を大櫛おおくしという云々～」のくだりに巨人の話が載っているのは有名である。

る。巨人が大蛤を食べその貝殻が積って岡となったとある。水戸市の「大串縄文貝塚」がそれである。縄文貝塚が文献に現れた最初である。現在は公園化されシンボルの巨大なダイダラポウがどこからでも目につく。

巨人伝説地は県内でも十数カ所があげられる。市原別院の武士にも伝わっている(後述)。越前海岸・伊豆半島とともに水仙の三大地である鋸南町はなかでも最も香りが高いことで知られている。山間は水仙ロード季節には山一面の水仙で埋まる。同時にそこはダイダラポウの里でもある。民俗学上興味尽きないテーマではある。

◇いよいよ国分寺台・防人の歌さきもり

若宮団地を抜けたところで山木三叉路から大多喜街道(国道297)に入ろう。間もなく阿須波あすわ神社に着く。街並から外れた崖

阿須波神社



の縁にあった。この辺が旧市原郡市原村である。神社から条里制の跡が見えるはずだがどのぞいたが高速道で遮られて見えない。先刻の海岸へと続く官道

はこの神社の前を通っていた。防人が西国に旅立つ途中神社に差しかかり阿須波の神に祈った際の歌であろう。『万葉集』の四三五〇にある。

庭中の阿須波の神に木柴さし吾こしばは齋はむいは帰り来までくに

帳丁若麻統部諸人ふみひとのよぼろわかおみべのもろひと

境内に歌碑が建っていた。千葉県から発った防人たちの歌は20首ほどあるが、防人の歌にあって何時も心の平静さが乱されるのである。西国(九州・壱岐・対馬)の国防にあたった防





郡本八幡神社・市原郡衙跡？

人たちが徴兵されて征ったのは東国からだけであった。旅費・食費はすべて自弁であり、ある程度ゆとりある人たちであったという。彼らの多くは帰ることができなかつた。どうしても昭和の時代とダブってしまうのである。小さいお社であるが神寂びた得もいわれぬ雰囲気を漂わせている。雨上がりだったせいかもしれない。

◇古代の郡衙ぐんがと国府たかすえのむすめ・孝標女

郡本の交差点を右に折れると300mぐらいに郡本八幡神社がある。本殿の裏に回ってみると神社には相応しからぬ巨大な土台

石が使われている。ここが市原郡の郡衙（郡役所）推定地とされている理由もなんとなくわかってきた。この石は古代郡衙の施設に使われた礎石だろうか。しかしこの時代まだ礎石を建屋に使ってはいなかったという。今のところ定説はない。次に郡本交差点を東に左折すると能満のうまんであり、府中日吉神社がある。室町時代の建立で市原市重要文化財である。

この辺は「府中ふちゆう」や「古甲ふるこう」（古い国府の意味）の地名があり上総国の国府（現在の県庁）所在地として有力な候補地となっている。養老川沿い低地の村上地区、上総国分尼寺東側の台地（後述・稻荷台遺跡）、そしてここ郡本地区の三か所が挙げられているが決定的な証拠に欠ける。

『更級日記』の作者菅原孝標女が少女時代を過ごしたのはこの辺りだろうか。孝標は上総国

の国司（現在の県知事）として赴任していた。寛仁四年（1020）九月三日上総介菅原孝標が任期を終え次女の孝標女を連れて都に戻るところから物語がはじまる。康平元年、夫の橘俊通と死別する晩年までの四十年間にわたる彼女の追想録である。十歳の時に両親・兄弟とともに国府のある市原にきた作者は草深い東国で夢多き少女時代の四年間を過ごした。

父孝標は常陸の国司も兼ねていたようだ。上総・下総・常陸などは都からは遙か遠い地の果てで陸奥や蝦夷と同一視されていた様子など文中うかがえる。五井駅東口から真まつ直なぐ東あに延びる大通りは「更科通り」と名付けられている。平成二〇年は孝標女の生誕千年。記念行事として市民有志による音楽劇「菅原孝標女」が国分尼寺跡の回廊で上演された。

◇稻荷台・王賜銘鉄剣

山田橋交差点の手前、市原中学入口近くが「稻荷台一号墳」「稻荷台遺跡」である。稻荷台一号墳は昭和五十二年(1977)銀象嵌の銘文が入った鉄剣(国指定文化財)が出土して一躍有名になった。

「王賜銘鉄剣」と呼ばれ、次のような銘文が現れた。

王賜□□敬安 此廷刀□□□

古墳時代文字情報が極めて少ないことから、たったこれだけであるが有力な考古資料である。文献によって読みの一例をみると、

王賜□□ヲ賜フ。敬ンデ安ゼヨ。此ノ廷刀ハ□□□。

古墳は28m弱の円墳で五世紀後半初頭とされる。残念ながら開発により削平されてしまった。80mほど離れた場所に小規



王賜銘鉄剣・銀象嵌の銘文

模な模擬円墳をつくり記念公園としこれが稻荷台一号墳だといっている。開発に伴う典型的事例でここまで歴史を歪めるのもいかななものか。



稻荷台一号墳記念公園

中学校の先の埋文調査センターでは考古資料を常時展示している。「王賜銘鉄剣」はここで見られる。関心がある方は一見をお奨めしたい。その他多くの出土資料も見られる。旧市原郡は国内有数の古代遺跡が存在するところであり同センターは数々の研究実績をあげてきた。稻荷台遺跡は調査後埋め戻されていま見ることは出来ない。平安時代の大規模な建物跡が発見され、異常なほど大量の緑釉陶器が出土した。研究の結果か

ら国府推定地として他の二カ所とともに有力な候補地にされている。

◇上総国分寺跡・尼寺跡

山田橋交差点から右折、市役所の手前を

さらに右に入ると「上総国分尼寺跡」が、そして市役所の南西側(市民会館裏)に「上総国分寺跡」がある。ともに



上総国分尼寺跡

国指定史跡である。

確認されていた尼寺跡の全貌が解明されたのは戦後の発掘調査によってである。調査当初に見学した際はただの原野でしかなく全く見当がつかなかった。この地から「法花寺」という

寺名が書かれた墨書土器が出土した。国分尼寺は妙法蓮華經（法華經）にちなんで「法華滅罪之寺」という。法花寺はその略称でありこの土器も尼僧たちが日常使用していたものである。この出土により国分尼寺は決定的になった。危うく宅地化されるところであったが今は整備保存されている。尼寺では全国最大の規模を誇り、中門と回廊が朱も鮮やかに再建された。また資料展示館では出土遺物も見られいろいろ歴史を知ることができる。

因みに国分寺は「金光明四天王護国之寺」という。また尼寺に対して国分僧寺ということもある。国分寺跡は市役所から市民会館をはさんですぐのところにある。ここも全国最大級の規模をもつ。上総国は下総国と並んで古代は「大國」であった。遺構は飛鳥の大官大寺式の伽藍

ほくしよどき

こんこうみょう

だいかんだいじしき

※長さ80センチメートル、口径70センチメートルほどの樽（たる）形の胴の両側に、直径約2センチメートルの鉄輪に張った皮を、皮面周囲の八つの孔に紐（ひも）を通して締め合わせた両面太鼓

配置で、塔跡には一、八mの礎石が露出している。そこに七重塔がそびえていた。建築の専門家によれば高さ63m以上あったという。法隆寺五重塔の倍である。隣の市役所庁舎屋上の高さは七重塔の六層目にすぎない。市庁舎一階ロビーには20分の1の復元模型が展示されているので寄ってみるのもいい。



上総国分寺七重塔礎石

国分寺跡の区域内に現在のお寺・医王山国分寺がある。山門をくぐると正面に茅葺の薬師堂が目に入る。桁行三間、梁間三間いわゆる三間堂である。前面には向拝という庇が付き、屋根は入母屋造である。内陣の須弥壇には唐様式の厨子が納められている。また天井には極彩色の

※かっこ

「羯鼓を奏する飛天」が画かれている。このお堂は年一度しか開扉せず何時訪ねても内部は拝観出来ないのが能満の埋文調査センターで飛天のレプリカを撮らせてもらった。厨子は市原市教育委員会の図録から引用した。このお堂は厨子とともに市指定文化財であり、正徳五年（1715）前後の作といわれる。

国分寺本堂の欄間に「波の伊八」こと三代目武士伊八郎信秘の彫り物が二面嵌め込まれている。二十四孝物語が透かし彫りで両面に彫ってある。十年ほど前千葉市に在住する郷土史家である元中学教師が発見した。波の伊八研究の専門家も絶賛し高く評価しているとか。本堂に上がってお参りすれば見ることができ（次号につづく。）



3代目波の伊八の彫り物

# 日光白根山と富弘美術館の旅



日光白根山をバックに・・・

六月の土曜日は、梅雨真っ只中の六月二十日、二十一日の一泊二日で、日光白根山と富弘美術館の旅に出かけました。

総勢二十四名、標高二千mのロープウェイ山頂駅までは、梅雨の影響か濃霧の中。ゴンドラの中から外を見ると、まるで空中に浮かんでいる錯覚に陥るほどでした。こんな中を歩いたら遭難するのではなにかと一瞬不安がよぎります。

ところが、山頂駅に着くと、さっきまでの霧が嘘のように晴れ上がり、遙か白根山が

一望でき（ま）した。上の写真（真）見えたから見えたで、あんな所まで歩けるのだろうか、また別の不安が頭をもたげましたが、何はともあれ出発となりました。

道々、高山植物の花（左上の写真真）に励まされつつ、ようやく樹林帯を抜け、ガレ場に出ました。山頂が近づくとつれ、足元は石ころから次第に大きな岩に変わり、最後は四つんばいで岩を登って、ついに二五七八mの頂に立つことができました。はるか眼下に中禅寺湖畔の男体山が見えたのには驚かされました。





キジムシ	ワカガミ	コヤマカハミ
------	------	--------

ヒメイチゲソウ	ヒカリゴケ	ミナグサ
---------	-------	------

桐生での昼食後、足利に立ち寄り、大岩毘沙門天を参拝しました。本坊から中型のバスがようやく通れるような道をそろりそろりと十五分ぐらい登ったでしようか、毘沙門天参道の石段の前に出ました。こんな山中に！と思うようなうっそうとした木

同じところを下っては面白くないと思つたのが間違いで、岩がゴロゴロと崩れ落ちそうな急な下り坂や、日陰には残雪がある登山道を這這うの体で降りてきました。幸い、筋肉痛以外、誰も怪我することなく無事だったのは何よりです。

奥日光の良質な温泉で疲れを癒す頃には、梅雨本番の雨となっていました。

二日目は、富弘美術館の見学。雨の日にはちょうどいいコースでした。

立の中に立派な毘沙門堂がありました。なにやら、四国山中の札所にも似ています。この毘沙門天は、大和信貴山、京都鞍馬山と並んで日本三毘沙門といわれるほどのものだそうです。

大晦日には、互いの悪口を言い合う奇才「悪態祭り」が有名。一年のうっぶんを晴らして、すがすがしい新年を迎える行事だそうです。

毘沙門天にお参りした私たちは、白根山に登った達成感や、富弘美術館の素晴らしい作品を見せていただいた、すがすがしい一泊二日だったとの思いを胸に、毘沙門天を後にすることができました。



大岩毘沙門天の仁王門

参加者募集  
約20名

第4回

2巡目

# 四国あるき遍路の旅



- ◆時間があれば行きたい方・・・土日を利用しての二泊三日の旅です。
- ◆まだ遍路に行く年でもないからという方・・・体力のあるうちですよ。
- ◆興味はあるんだけどという方・・・思い立ったが吉日といえます。
- ◆どんな人が一緒なのか不安な方・・・一緒に歩けば、皆、仲間になりますよ。
- ◆体力に自信のない方・・・マイペースで大丈夫。疲れたらタクシーも可。
- ◆わからないことがある方・・・どうぞお問い合わせください。

二巡目の第四回の参加者を募集いたします。

四回目は、四国八十八ヶ所で最初に海辺を歩くへんろ道です。いよいよ徳島を終えて高知県に足を踏み入れます。発心から修行の道場へと進んでまいります。

【日程】 十一月二十日(金)  
～二十一日(日)

【旅程】 飛行機にて徳島へ。前回歩き終えたところまで路線バスにて移動。二十二番平等寺参拝後、海岸沿いまで歩き民宿泊。二日目は海辺を歩いて二十三番薬王寺。その後電車・バスを乗り継いで室戸の二十四番最御崎寺。宿坊泊。三日目、時間の許す所まで歩いて、高知龍馬空港から帰路。

【参加費】 約五～六万円を予定

【申込】 お電話・メールなどで、お寺までお申込下さい。

## 写経会

【後期期日】

七月十二日、八月二日、九月六日

十月四日、十一月八日

【時間】

午後一時半～三時半

【会費】

一期、三千元(花園会員外五千元)

【講師】

齊藤 加代子先生・住職

## 茶禅会

【期日】

毎月第二・第四火曜日午後一時半～

【会費】

月二千元

【講師】

圓福寺寺庭 宮田 宗尚

【服装】

白い靴下(それ以外は自由です。)

【用意するもの】

裏千家用の扇子・帛紗・懐紙

【申込】

写経会、茶禅会ともお寺まで。

## はじめての遠足

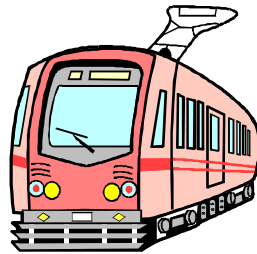
四月二十四日に、母の三回忌のために、岩手に帰郷しました。三回忌を済ませて、花巻の温泉に泊まることになりました。

高速道路を使えば、一時間足らずで宿に着きます。さすがの岩手もすでに葉桜になっていましたが、山に近づくにつれ遅い桜がまだ残っていました。山あいの温泉場の前に、道を覆うほどの満開の桜がありました。そこは、私が子どもの頃に遊園地があった場所です。遊園地がなくなっているからもう十年もたっているのですが、桜だけがかつてのにぎやかさを思い出させてくれました。



私の生まれ  
た田舎町から  
行ける遊園地

がここでした。といっても、お寺で母一人子一人で生活していた私にとって、休日に母と遊園地に行くなんていうことはかなうはずのない夢でした。でも、ただ一度だけ、その遊園地に行くことができました。幼稚園の遠足です。



団体の貸切バス  
なんかが一般的ではなかったのかもしれない。花巻の駅から、小さな私鉄の小さな電車に揺られて、その遊園地に行つたことを覚えていません。遊園地の名前も覚えていませんし、どんな乗り物があったのかももう覚えてませんが、とにかく電車に乗って遊園地に行つただけをよく覚えています。なにしろ初めての電車、初めての遊園地、はじめての母子での遠出だったと思います。

大きくなってから、その遊園

地の先にあるスキー場に行ったり、温泉に行ったりするたびに、そのときのことを思い出すのです。車で行けばそんなに遠くないところなのに、ものすごい大旅行だったなあ。道路わきの小さな遊園地なのに、今で言う巨大アトラクションに乗ったような気分だったなあ、と。そして、なにより母とはじめて一緒に出かけられた、思い出に残る遠足でした。

今では親子で出かけることは珍しくないことですが、幼稚園のお友だちや先生といっしょに、親子で出かける遠足は、きっと子どもたちの大切な思い出になるだろうと思います。

どうぞ、お天気にも恵まれますように。

(5月の「園だより」から)



臨濟宗妙心寺派花園会本部・花園大学共催

# 夏季講座受講生(10期生) 募集ご案内

～禅を学ぼう 仏教を学ぼう～

世界唯一の「臨濟禅の大学」で学んでみませんか。  
「狩野探幽の雲龍図」の妙心寺法堂で坐禅をしてみませんか。  
大学での学びと禅の実践の場をご用意いたしました。  
是非会員様におすすめ下さい。

## ◇ 募集要項 ◇

- 期 日 平成 21 年 8 月 28 日(金)正午受付～8 月 30 日(日)正午まで
- 会 場 大本山妙心寺・花園大学・花園会館
- 宿 泊 花園会館(相部屋となります)
- 募集定員 80 名
- 受 講 料 25,000 円(宿泊費 朝食 2 回・昼食 1 回・夕食 2 回付及テキスト代)
- 内 容 一期 二泊三日 9 講座 2 実践禅学 三期 3 年をもって修了証授与
- 講 師 花園大学教授・妙心寺派役員他
- 特別講師 臨濟宗門覚寺派管長 足立大進猥下
- 申 込 住所・氏名・性別・年齢・電話番号明記の上、申込用紙又は葉書・封書にて  
下記あてにお申し込みください。(改めて詳細要項を送付いたします)
- 申込締切 平成 21 年 7 月 31 日
- 申 込 先 〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町 64  
妙心寺派宗務本所 花園会本部 夏季講座係宛



# 第29回花園会ゴルフ大会

5月27日 於：市原京急カントリークラブ

順位		グロス	ハンディ	ネット
優勝	佐藤 征吾	85	18	67
準優勝	荒井 恒夫	96	24	72
3位	佐藤 美智子	112	36	76
4位	柴田 勝美	80	3	77
5位	岡本 報頭	86	8	78

ベストアップ		-21	佐藤 とも子
ドラコン	柴田 勝美	ニアピン	正岡 宗之
	福田 雅男		佐藤 征吾
ドラタン	香坂 千香子		武 光俊
	小山 稔		小山 稔

新緑の五月、天候にも恵まれて、二十九回目が開催されました。参加者は二十三名、六組での競技となりました。きれいな緑、きれいな空気が、後は腕前だけが・・・なのですが、参加者それぞれ実力を発揮して、白熱した試

合でした。結果は表の通りです。実力者が名前を連ねる中で、女性の佐藤美智子さんの三位は見事でした。ベストアップ賞は、前回のスコアよりいかに多くスコアを縮められたかを競いますが、これも女性の佐藤とも子さんが断トツの二十一でした。今回の賞品は、参加者の希望により、国産牛肉でした。優勝、準優勝はもとより、当月賞や末広がり賞などもあり、順位だけでない楽しみも満載でした。参加者には罰則があり、一回の罰で二百円の罰金が課せられています。その罰金で集められたチャリティは、妙心寺おかげさま献金に、二万七千円寄付させていただきます。次回は、十一月四日（水）に開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。



## 平成20年度花園会会計報告

平成20年4月1日～平成21年3月31日

	科目	金額	備考
歳入	前年度繰越金	216,703	
	お寺より活動費	1,520,000	
	行事収入	3,014,910	年越し参り、地藏盆、禅童会・新年会・写経会・ご詠歌などの参加費を含む
	雑収入	3,492	地藏盆お祝い金・預金決算利息
	歳入合計	4,755,105	
歳出	宗派賦課金	167,500	本山納付花園会費、災害見舞金ほか
	行事費	3,426,642	年越し参り・地藏盆・禅童会・土曜会・写経会・ご詠歌ほか
	事務費	519,268	事務謝礼、行事案内状の印刷費・郵送料など
	会議費	387,218	月例役員会ほか
	研修費	0	
	慶弔費	0	
	雑費	0	
歳出合計	4,500,628		
剰余金の¥254,477のうち、¥200,000は書院などの畳替え費用の一部に寄贈し、その残金¥54,477は次年度繰越金としました。			

平成二十一年上半期  
お寺と和尚の記録抄

1月	1日	新春ご祈祷
	1日～3日	修正会
	18日	花園会新年会
	21日	社会保険センター写経講座
	31日	幼稚園バザー「くすのきまつり」
2月	1日	写経会
	4日	社会保険センター写経講座
	8日～10日	幼稚園、職員研修旅行
	12日	ご詠歌練習
	17日	土曜会「妙心寺展見学」
	18日	社会保険センター写経講座
3月	1日～3日	四国あるき遍路の旅(一・二・三回目)
	4日	社会保険センター写経講座
	8日	写経会
	15日	彼岸法要
	17日	幼稚園、卒園式
	22日	彼岸法話会 布教師 畠中健友師

3月	23日	取手長禅寺彼岸法要
	23日～28日	学習院ボーイスカウト、市原合宿
	24日	寺庭尚美さん、お茶名披露 於書院
	25日	宗達禅士壮行会
4月	1日	社会保険センター写経講座
	3日～5日	冬の寺子屋 於新潟県苗場
	5日	写経会
	6日～7日	千葉東税務署税務調査
	8日～10日	妙心寺開山無相大師六五〇年遠諱団参
	11日	幼稚園、入園式
	15日	社会保険センター写経講座
	24日～26日	岩手霊桃寺先寺庭三回忌、役員研修
5月	10日	写経会
	14日	ご詠歌講習
	16日	土曜会、市原ボランティア
	20日	社会保険センター写経講座
	27日	第二十九回花園会ゴルフ大会
6月	3日	社会保険センター写経講座
	7日	写経会
	17日	社会保険センター写経講座
	20日～21日	土曜会、日光白根山と富弘美術館の旅

圓福寺寺子屋「禅童会」で、子どもたちに絵の指導をして下さっていた竹中靖さんが、去る六月二十九日に逝去されました。享年八十二歳でした。

竹中さんには、禅童会だけでなく、地藏盆の灯籠の絵（左右の絵）を書いていただいたり、また先年、涅槃精舎毎歳法要の折にフルートコンサートと絵画の小作品展を本堂で開催されたりと、圓福寺の諸行事にたくさんのお手伝いをいただきました。

竹中靖さん、逝く。

おさむ



た。ここに深謝申し上げるとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

為 浄楽院美岳靖心居士 菩提



フルートコンサートでの竹中さん



チロルのスケッチ



子どもたちのお盆

# 地藏盆のご案内



8月22日(土)

午後5時	供養受付(本堂にて)
5時半	水子・ペット・人形供養
6時	御霊送り
8時	模擬店閉店・地藏盆終了



山岡鉄舟母堂のお地藏さんになんで、毎年開催されている「地藏盆」も今年で第十八回。今年は八月二十二日です。参道の両側に、「禅童会」に参加した子どもたちが作った灯籠が飾られ、境内のわらべ地藏たちにお灯明があげて、本堂では、水子供養、ペット・人形の供養。そのお灯明を頂いての「みたま送り」、幼稚園児の盆踊りとなります。

## ご供養のご案内

地藏盆では、水子供養とペットの供養、人形の供養とお焚き上げをしております。供養をなさりたい方は、添付の申込書を郵送して下さい、お電話にてお申込下さい。

### \*供養料

水子	一霊位	三千元
ペット	一霊	千円
人形	一体	千円

\*供養料は当日の受け付けです。



## お品書き

手作りの焼きそば、炭火やきとり、山形産玉こんにゃく、昔なつかしの駄菓子、市原産米のポン菓子の実演販売、冷たい生ビール、ジュース、こころしずかに野点の一眼、その他

